

有機米の価格帯と輸出を見据えた生産における国際競争力に関する分析

笹原和哉*

(農研機構東北農業研究センター)

An analysis of international competitiveness of Japanese organic rice by exporting price range

Kazuya SASAHARA

(NARO Tohoku Agricultural Research Center)

1 はじめに

有機農産物については海外の市場が増大中である。特に、米国は日本の約 28 倍の有機食品の世界最大市場となっている (2017 年現在)。また、2021 年に決定された「みどりの食料システム戦略」は耕地面積に占める有機農業の取組面積割合を大幅に拡大することを目標としている。もし有機米の生産面積のみが増加した場合、欧米よりも有機農産物に関心の薄いと考えられる日本では、有機米市場の狭さから将来、一般米に比べてわずかなプレミアへと値崩れすることを懸念される。ならばその際、日本における海外の有機米の市場を拡大させて、安定した有機米の輸出の継続が実現していく場合、その値崩れの防止が期待される。そのためには、輸出を行う有機農業経営を増やす必要がある。その際は、海外の現地の価格帯に基づいて、実際にいくらかで生産すれば現地で販売可能かについて、予備知識があれば、日本の農業経営者たちが、より有機農業への参入に積極的になる効果を期待できる。

そこで、米国西海岸を対象として、日本産有機米輸出版売ビジネス成立の余地について、現地の価格帯に基づいてその成立条件を明らかにする。

2 試験方法

(1) 研究方法のイメージ

本報告は、有機米、一般米の小売価格帯を明らかにするために、現地調査を米国西海岸のサンフランシスコ、ロサンゼルスとその郊外で実施する。他地域の先行事例研究によると、特別栽培米で、日本産米を輸出するために国内でパッケージされたコメを 370 円/kg で生産者は出荷していた¹⁾。その米は円に換算した場合、1,559 円/kg か 1,689 円/kg にて、現地のスーパーマーケットやグロサリーにおいて小売販売されていた。レートはこの調査時の 1 ドルが 130 円前後であったことから、その後円安が進んでいるが、本報告は 1 ドル=130 円として整理している。これを先行文献による事例の日本での出荷と現地の小売販売価格の差を引用する。そこから、日本で生産者が実感の伴う輸出時の生産者価格を推測し、現行の JAS 有機米が目標とするべき生産費を解明する。その上限は、現在米国の生産者が供給している価格の上限から、引用する先行事例研究の現地小売店販売価格と生産者出荷価格の差とする。一事例に過ぎないことに留意する必要があるが、生産現場には有機米生産計画段階にて求められる情報であると考えられる。

(2) 調査した店舗について

2023 年 1 月から 2 月、ロサンゼルスおよびサンフランシスコとその郊外において、有機等こだわりの食品に特化した食品雑貨店 4 店舗、または、和食用米を売る日系・韓国系の 7 店舗を対象として調査を行った。

(3) 対象とするコメの位置づけ

和食用米は、米国では「Short Grain= 短粒」、「Sticky = 粘り強い」という特徴がある。「For Sushi」などとして、小さいが一種のコメのジャンルとして成立していると考えられる。「Gluten Free」と健康的な食品として訴えることもできる。なお、米国における和食は、日本の文化を伝えるものであり、中華料理やメキシコ料理等と同様、これを一つの食のスタイルとして取り込もうとする米国人も少なくはない。なお、必ずしも明確な理由があるとは限らないが、和食は健康的な食と特徴づけられている。そして、現在は日系アメリカ人だけが和食用米の顧客ではない。また、有機米については、日本と米国との有機製品に関する同等性相互認証によって、有機 JAS 認証の製品は、米国でも信頼される USDA 有機認証のマークを付けて販売することが可能である。なお、相互認証については、相手国等の基準が変わると、それに応じて認証マークを付けられるかが変更されていくことに注意が必要である。このため、日本の有機農産物であっても、常に可能というわけではないことに注意が必要である。

3 試験結果及び考察

表 1 より、日本から輸出される一般米は現地で今回 33 アイテムを確認した。「コシヒカリ」など品種のブランドであった。その価格帯は最低 520 円/kg、平均 1,246 円/kg、最高 2,404 円/kg であった。現地で生産される一般米としては 42 アイテムを確認し、最低 265 円/kg、平均 749 円/kg、最高 1,070 円であった。現地生産の和食用米のうち有機米は、K 農場、L 社の 2 農場のものが多く、他の農場からの生産は僅かであった。最低 619 円、平均 1,216 円/kg、最高 1,719 円/kg であり、有機米は同種の一般米の約 2 倍近い価格帯を形成している。日本から輸出される有機米は今回の調査では店頭販売を確認できなかった。

平均価格は輸出一般が最も高く、次いで現地生産の有機米、現地生産の一般米の順であった。それぞれの平均価格には差があった。現地産の有機米は一般米に比べて同じ K 農場において平均で約 2 倍であった。

図 1 において、価格帯を 200 円/kg ごとに示すと、日本産を輸出する一般米は米国現地生産の最高価格付

近に、最大アイテム数が存在していた。現地生産米の最高ランクをはるかに超えた価格帯で販売中の商品が多い。輸出時の管理方法に一般米、有機米、特別栽培米に差はないとすれば、米国での供給における競争力は、現地生産を大幅に超えている一般米よりも国際競争力があると考えられる。すると、現地有機米の最高価格までに有機米を日本から輸出すれば、十分に継続出荷が可能と考えられる。1,719-1,254 = 465 であり、精米であれば、465 円程度まで輸出可能ではないかと推察される。

すでに、個別経営が自ら乾燥調製した上で 400 円 / kg にて有機玄米を輸出する事例がある。この経営においても国内向けの有機米の出荷価格に比べると低い方だという。しかし、出荷を継続して、米国の有機農産物市場を開拓していることになる。別にこの地域には、有機 JAS 米が、地域でまとめて一つのロットで、数 100t 存在しており、集荷業者によって集荷されている。生産者は出荷時には一般の水稻出荷等とほぼ変わらない仕組みで有機 JAS 米をカントリーエレベータに出荷可能である。なお、令和 5 年現在は精米された有機 JAS 米は 400 円 / kg を超える価格にて、国内に出荷されている。もし、日本の有機米市場の狭さから将来、一般米に比べてわずかなプレミアムへと値崩れすることを懸念するならば、現状の国内消費にのみ依存しているよりは、有機米の輸出継続や拡大はリスク分散として妥当な意義のある将来への投資と考えられる。

4 まとめ

本研究は米国西海岸を対象として、日本産有機米輸出販売ビジネス成立の余地について検討した。基本となる情報がまだ少ないことに留意する必要があるが、米国西海岸に日本産有機米を玄米 400 円 / kg 程度の価格にて出荷して輸出されている。また、同じ地域の集出荷施設にある精米についても、現地の価格帯に基づいて、400 円台前半で輸出すると、米国産有機米の価格帯に収まる形で供給可能と推察され、継続して輸出販売が可能と考えられる。米国西海岸においても、現地産の有機米は現地産一般米に比べて約 2 倍であった。もし、日本の有機米市場の狭さから将来の値崩れを懸念する場合、400 円 / kg 程度の価格での出荷を、米国のような大型の有機農産物市場を持つ地域での市場の開拓のために継続する努力は必要である。それは、「みどりのシステム戦略」の成功に向けて、ごく妥当なことから考えられる。

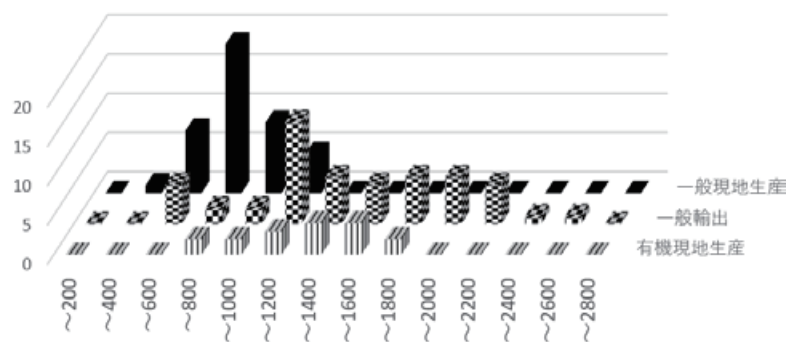
引用文献

- 1) 山本淳子・安江紘幸. 2023 . 市場ニーズを反映した販売モデルの策定. 令和 4 年度営農・作業技術試験研究推進会議農業経営推進部会, 3.

表 1 一般米及び有機米の小売価格についての輸出・現地生産の関係

		アイテム数	最低	平均	最高
一般	輸出	全体	33	520	1246
		新潟コシヒカリ	5	974	1529
		山形つや姫	6	1091	1410
		北海道ゆめぴりか	5	832	1318
	現地生産	全体	42	265	749
		TM米	4	860	944
		K農場 その他	3 35	481 265	568 742
有機米	現地生産	全体	17	619	1216
		K農場	8	619	1138
		L社	6	1230	1393
		その他	3	1031	1068

注 単位は円/kg、米国での現地価格を 1 ドル = 130 円で換算



注 単位、レートは表 1 と同じ

図 1 米国西海岸における一般米と有機米の価格帯